

働いたのは、実はわたしではなく、神の恵みなのです。15章10節

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人 中 田 輝 次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095 (843) 3869 FAX 095 (843) 3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤 木 博 英 社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095 (821) 2146 FAX 095 (821) 2148



2月・教皇さまの意向のために祈りましょう

- ①一般の意向：聖霊に従う教会司牧者
- ②宣教の意向：アフリカにおける平和の促進
- ③日本教会の意向：最貧国における教育の推進

いのちを守るための緊急アピール

カトリック司教協議会・社会司教委員会は1月13日、悪化する経済状況を受けて日本の教会に「緊急アピール」を発表した。アピールは、失業者、路上生活者、自死の危機にある人に何ができるか考え、活動している団体との連携を訴えている。

日本のカトリック教会の皆さまへ

2008年の後半、アメリカのサブプライムローン問題に端を発した金融危機は、世界的な経済危機に発展してしまいました。日本でも自動車工場をはじめとする多くの工場や企業で経営状態の悪化による減産・事業縮小が進められ、従業員削減、特に大量の派遣労働者の派遣切りや期間労働者の雇止めが、連日テレビや新聞で報じられるようになっていきました。今回の失業者は若い世代の人が多く、短期雇用で失業保険の対象にもならない場合もあり、非常に厳しい状況に陥ってしまう人が少なくありません。また、状況が日々、急激に悪化しているのも特徴的です。日本各地の野宿者の数は2008年秋以降、増加しています。この事態は2009年に入りさらに深刻化すると予想されます。また日本の自死者は1998年3月以降、急増しましたが、それはまさに多くの企業が経営破たんした1997年度の年度末のことでした。今回の危機はそのとき以上ではないかと危惧されています。これらの現実をわがしちキリスト信者にとつても決して他人事ではないはずで

この緊急事態にあたり、日本カトリック司教協議会・社会司教委員会は、多くの人がいのちの危機に直面しているという状況を訴え、今、特にその最悪の結果である「路上死」と「自死」を出さないためにわたしたちに何ができるか、教区・小教区・修道会・信徒の団体で考えていただくことをアピールを出すことにしました。

残念ながらいまだに失業者や路上生活者に対する差別偏見は根強く残っています。今回の派遣切りなどによる失業者の問題が顕在化する以前から、働きたくとも職がなく路上生活を余儀なくされていた人々を「怠け者の自己責任」として切り捨てる風潮がありました。しかし、野宿せざるを得なくなった状況はどちらも同じであり、合わせて支援しなければなりません。

去る12月、世界人権宣言発布60周年に当たって、日本の司教団は人権メッセージを発表しました。「人権についての」今日の危機的局を打開するためには、そのすべての要因を一つ一つ根気強く取り除いていく必要があります。そのためにもわたしたちは、貧しく弱い立場に追いやりられ、大切な人間関係を断たれてしまっている人々、人間らしい生活が損なわれ、あるいは妨げら

れている人々の側に立つて、この世界を見ていかなければなりません」との司教団の呼び掛けに今こそ応えていきたいと思います。すでに各地で、雇用停止となった外国人労働者への支援や、野宿を余儀なくされた人々のための炊き出し、夜回り、医療・法律相談活動など、また派遣切りによって仕事も住まいも失い、路頭に迷った人への緊急避難所提供等々の対応をしている方が大勢おられることを知っています。その働きに感謝するとともに、さらにより多くの方々がその活動に参加・協力されるよう願っています。

今回の事態は、わたしたちカトリック信者だけで解決できる事柄ではありません。本来、貧しい人々の最低限の生活を守る責任は政府や行政機関にあります。行政が本来対応すべきことを速やかに施策するよう市民として求め、働き掛けることは支援のひとつとなるでしょう。しかし同時に、行政の対応を待ちきれずに、各地でさまざまな市民団体がこの問題に対して取り組みを始めています。それらの団体と連携を取り、それらの団体に協力することも大切な働きです。また、どこに行けば相談でき、適切な支援が受けられるかという正確な情

司教のための社会問題研修会

高見大司教含む司教6人と大分教区管理者田口孝志神父が、1月9日午後から10日昼まで釜ヶ崎で「道の司牧」路上生活者問題」の現地学習を行った。イエズス会社会司牧センター「旅路の里」で、「ふるさとの里」で、

あいらん総合センターのシャッターが開き日雇労働者たちが仕事探しを始める様子や通称三角公園で炊き出しの様子を見る。日雇労働者の体験談と本田神父の福音との関連についての話を聞き、500人が行列をして雑炊をいただいている三角公園へ行き、お相伴にあずかる。

教区諸活動責任者会議

1月20日午後2時から、新たに編成された教区諸委員会の責任者が大司教館に集まった「写真。信仰養成部・福音化推進部・教会奉仕者養成部」の3部で活動する教区組織も発足して1年である。



会議では、組織を機能的に動かす意識を共有し、単年度および第3期（08年4月～11年3月）の計画と予算作成の日程を確認した。今後も組織を活用し、教会と個人の刷新社会に開かれた教区を目指す。

司祭・助祭叙階式

式高見三司教
日時2月11日（水）午前10時
場所福江文化会館（五島市）
司祭受階者使徒トマ 岩下 裕志（福江）
助祭受階者ミカエル 中尾 直通（三井楽）

選任式

式高見三司教
日時2月10日（火）午前11時
場所青方教会
祭壇奉仕者ペトロ 大水 満（曾根・大水）
朗読奉仕者ヨセフ 竹中 武紀（桐）

1月号訂正

1面「年頭教書」と2面「列福式こぼれ話」記事中の「看護士」は「看護師」の誤りです。また、2面「謹賀新年」一覧に岩永 薫師（昨年7月帰天）のお名前を誤って掲載いたしました。訂正しお詫びいたします。（広報委員会）

ほしかな

昨年12月28日に、巡回教会に当って留萌（るもい）の教会学校小生とて驚いた。北海道の教会とどうつながるのかまつたく見当も付かなかったが、手紙を読んで納得した▼留萌教会は聖パウロにささげられた教会で、「こじか」という子供向けのカトリック雑誌で聖パウロにささげられた教会が日本全国40カ所あると知って、こちらの巡回教会に手紙を出したというものだった。「そちらの教会にも教会学校があるのではありませんか」「どんな教会活動をしていますか」▼素直な子供たちの質問にたじたとつてしまふ。正直に返事をすれば、子供たちは気落ちするかも知れない。巡回教会には教会学校などないし、教会独自の誇らしい活動も見あたらない。どこかで、「できるはずがない」と思っているかも知れないからだ。もちろん、懸命に自分の所属する教会を支えている。それでも支えきれなくなってきたりとうすうす感じ始めている▼典礼当番を回していくにも人がいない。評議会のメンバー選挙になると顔を出さない人に1票を入れるわけにもいかない。そんな中で、「どんな活動をしていますか」と外に向かって発信している子供たちに、大いに刺激を受けた。手紙を受けた私たちの巡回教会は、1月最後の土曜日から「聖パウロの手紙を学ぶ会」という形で活動を発信することにした。

司祭叙階
を前に



使徒トマ
岩下 裕志

思えば、これまでよく怒られてきました。物事を真剣に考えていなかったのか、ただの能天気だったのかよくわかりませんが、とにかく反省しているように見えなかったのでしょうか。幸か不幸か、私のあまり悩まない性格が、怒られていることにすら気づかせていなかったのかも知れません。こんな私を怒り続けてくれた人は、両親、友人、学校の先生、諸先輩方、神学校の養成者他多数、など多岐に渡りました。

怒られているうちが華

いま司祭叙階を前にして、静かに振り返ってみると、ひしひしと感じます。「ああ、この人たちが自分を育ててくれたんだ」と。今まで出会った誰ひとりもが欠けても、自分は司祭としてのスタート地点に立つことさえできなかったはず。これまで多くの失敗を重ねて、つまづいて転んでばかりでした。それでも「立ち上がれ」と励まし、「しっかりと前を向いて行け」と背中を押してくれたのも、やっぱり自分を怒ってくれた人たちです。

人たちでした。私は決して一人で生きてきたわけじゃない。いろんな人に出会って、支えられて生きてきました。そこには、怒ったり注意するという表現での優しさがあり、愛がありました。私はそんな人と人とのつながりの中で成長し、今の場所に立っています。私は、確かに「教会」という交わりに生きてきたのだと自信を持って言えます。

これまで受けるばかりの歩みでした。召命の道を歩むために、神さまからどんなに助けと恵みをいただいたのか計り知れません。そんな弱々しい私が奉仕者として生きることを望んでいます。神さまに、イエスさまに、これまで出会った人々に何よりも感謝しながら、これから出会う人々に、私のささやかな祈りと行いがイエスさまの愛を証しするものとなるように自分をささげていきたいと思っています。キリストの教会を誇りとし、人々が愛し合う教会に支えられ、そんな教会が好きで奉仕して生きる一司祭でありたいと思います。神さまの導きに感謝！

略歴

1980年9月12日五島市福江町生まれ。92年4月、長崎カトリック神学院・南山中学校入学。95年4月、長崎南山高等学校入学。98年4月、長崎コレジオ・長崎大学入学。02年4月、福岡サン・スルピス大神学院入学。08年2月、助祭叙階。福江教会出身。

派遣司祭から
こんにちへ

長崎教区は多くの司祭を派遣・留学させている。一昨年の中央協議会で働く司祭の便りに続き、高松教区で働く浜口神父に近況を寄せてもらった。

高松教区 桜町教会担当
浜口 末雄

高松教区に来て、4年が過ぎようとしています。その間、長崎教区のたくさんの方々からの応援と援助に支えられていた、というのが実感です。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。

高松教区は、新求道共同体という運動団体(本人たちは運動でも団体でもないと言っている)が入って来て活動を始めたが、大半の信者たちはこれを受け入れることができません。このように、深刻な争いにまで発展し



地元の信徒と続いている「26聖人の道」巡礼(京都・長崎)に、後列左が浜口神父。

列福式実行委員会
最終報告

昨年12月21日、列福式を終えて各部門が大同教館に集まり、最後の実行委員会会議を行った(写真)。会議はすでに事務局に提出済みのレポートに沿って進められ、①自部門の概要(協力者の人数と活動内容)、②自部門としての反省点、③主催者(カトリック司教協議会)に対するフィードバック、④その他・提案が発表された。

問題点が浮き彫りに

各部門の発表の中で、「自部門の反省点」に繰り返し指摘された点として、長崎教区で組織した実行委員会と、カトリック中央協議会・カトリック司教協議会との協力態勢があった。実行委員会の各部門で話し合い、決定事項としてとした内容が何度となく変更された。意思決定機関の所在が時と場合によって揺れ動き、不明確であったこと、命令・指揮系統が不

明瞭であったこと、連絡の不徹底などがその原因として挙げられた。反省点を発表しながら、緊密な連絡態勢がぜひ必要だとどの部門も痛感していた。

また、「主催者に対するフィードバック」の中では、中央と開催地長崎それぞれ離れたところで、数と活動内容、②自部門としての反省点、③主催者(カトリック司教協議会)に対するフィードバック、④その他・提案が発表された。



諸事情がよく飲み込めないまま独自に会議を進めて問題が生じたことを受け止めてほしいとの意見があった。

メンバ―全員が力を発揮し、それでも、この一大行事を成功させたいとの関係者すべての思いが、さまざまな困難を克服して

くれた。実行委員会事務局は長崎を除く15教区とできる限りの連携・役割分担を進め、開催趣旨に沿うよう努力した。青年たちも、置かれている困難な状況をはねのけて、実りある活動ができた。

次につながる提案

会議では最後に「提案」を述べた。その中で「列福式が終わったという達成感で終わらずに、一人ひとりの命を見つめ、信仰の原点にたどり着けるように導いてほしい」という意見が上がった。

なかには「列福式も長崎で！」という提案もあり、列福式が長崎で行われたことが、列福式など今後の日本の教会の次なる展開にとって意味深い出来事であったことが伝わった。これまでの積み上げは必ず活かされる。

大明寺教会・馬込教会で
「聖パウロの手紙を学ぶ会」を展開

記念になるような計画をと、主任司祭の中田輝次神父が提案した。

聖パウロ年に、馬込小教区の2つの教会で、「聖パウロの手紙を学ぶ会」という活動を開始した。巡回教会の大明寺教会が、聖パウロにささげられているので、



内容は、新約聖書、特に聖パウロの手紙を通読するもの。半年間、毎週土曜日に教会に集まり、A4判の大型新約聖書を手元で開き、日本聖書協会から出ている「聖書CD」を流して、その朗読に合わせ

ふどう園

▼佐賀地区信徒使徒職協議会主催「パウロ年講演会」2月15日(日)14時～16時 佐賀教会 講師・鈴木信一(聖パウロ修道会) 参加費無料。 ※午前はミサ(10時)と佐賀教会主催のパウロについての講演(11時10分)もあります。

問合先・佐賀教会 TEL 0952(23)4754 ▼イエズス会立山修道院 お知らせ ●祈りの一日 ①2月25日(水) ②3月7日(土) 9時50分～15時半 ●ともに祈る日々 ①2月14日(土)～15日(日) ②3月28日(土)～29日(日) 初日17時～翌日15時 TEL 095(82)4577 ▼研修会「復活祭を準備する」3月1日(日)10時半～16時半 相浦教会 申込先・教区典礼委員会 研修会事務局 TEL 0956(75)0688 FAX 0956(75)0731 ▼青年による島原巡礼と青年のための黙想会のお知らせ 【島原巡礼】3月1日(日)

長崎大司教館に集合、10時出発 企画・わっかもんさるくミサ 【黙想会】3月7日(土)8日(日) (会場)長崎大司教館予定 問合先・時津教会 TEL 095(882)7140 ▼カリタスジャパン講演会と報告会のお知らせ 【自死と孤立】講演会 3月8日(日) 13時半～15時半 講師・山口和浩氏(NPO法人自死遺族支援ネットワーク代表) 【バングラデシュ視察報告会】3月29日(日) 13時半～15時半 話し・成井大介(カリタスジャパン秘書) 会場はいずれも長崎カトリックセンター

香典返し お礼とご報告 長崎大司教区 ●福島浩二様(香焼) 故ミカエル福島貞夫様 右の方から香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに故人のごめい福を心からお祈り申し上げます。

の経験がある。 今回の聖書通読の流れは次の通り。1.「愛の賛歌」を参加者で唱える。2. 大型新約聖書をそれぞれ開き、準備する。3. お世話係が、その日の朗読箇所の新約聖書を再生する。4. 朗読が終わったら、「福音者ペトロ岐部と一七七殉教者の取り次ぎを願ひ、その列聖を求め祈り」を唱えて終わる。

この方法であれば、参加者が仮に1人しかいないときでも自分で聖書を

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
(有) 栄光式典社
代表取締役 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)
貨物保険有り
・一般引越
・小荷物
・遠距離
・学生引越
・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00
水浦運送
シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町12-3
TEL(095)847-7151
844-1420

なが さき せき ちょう
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17 岩永ビル
石 碑
墓地工事
写真彫刻
墓地分譲

平和論

永井 隆の思想を語る II

講師 山内清海師



第1回の「神の摂理」、第2回の「いけにえ論」に続き、第3回の「永井隆の平和論」について語る講演会が1月18日、長崎市立図書館多目的ホールにおいて開催された。講師は、山内清海師(長崎教区司祭「お告げのマリア修道会付」、長崎純心大学・大学院教授)。



井に対する批判や誤解はここから生まれている。講演会は真実の永井を伝え、永井に対する誤解を解消するために行われた。第3回は「永井

長崎市辻町の「十字架山」。丘の頂上に位置するこの巡礼地は現在、周辺に民家が迫り、聖務に支障をきたす状況になってきている。そこで土地を管理する浦上教会は周

祝別式が行われた。バラス敷の駐車場を設け、車(マイクローバス、大型車不可)での参詣も可能となった。整備は今後も進められていく。十字架山は1881

十字架山について

巡礼地

周辺地を購入(浦上教会)

辺地を購入、列福式前日の昨年11月23日、平野勇主任神父の司式により拡張整備部分の土地のちによって創設された。厳しい弾圧と迫害の中で信仰を守り抜き、信仰の自由を守り通したことを神のご加護を感謝し、また心ならずも踏み絵を行った罪と為政者の罪もゆるしていただくためにつくら

年(明治14年)9月、当時の浦上教会主任司祭プー師の勧めで、流配から帰った信者たちによって創設された。厳しい弾圧と迫害の中で信仰を守り抜き、信仰の自由を守り通したことを神のご加護を感謝し、また心ならずも踏み絵を行った罪と為政者の罪もゆるしていただくためにつくら

「オフィシャルガイド」育成講座 一新上五島町

県が推進する「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録の機運が高まる中、キリスト教や教会、シタン史に対する正しい知識と理解をもったガイドの必要性が高まり、五島地域雇用創造推進協議会主催で、この1月「長崎大司教区監修によるオフィシャルガイドの育成講座」が開催された。

講師は長崎巡礼センター長の中村満師とスタッフ。18人の参加者は全4回(1月17、18、24、25日)の講座を通して



「巡礼とは」「長崎や五島のカトリックの歴史、長崎・五島巡礼について、野崎島や中通島での現地体験研修も織り交ぜ学んだ。今回のように長崎巡礼センターが協力した



関連の講座は五島市(同協議会主催)でも昨年12月に開かれたが、参加者はいずれも宗教を超え熱心に取り組む姿勢がうかがえる。今後、島原での開催(長崎県観光連盟主催)も予定されている。

新上五島町の観光客

県の観光統計によると、平成19年1〜12月の観光客延べ数は20万3千885人(前年比99・5%)、原油価格の高騰で町への唯一の交通手段、船舶の運賃値上げが響く。しかし、教会群の世界遺産暫定リスト入りで注目を集め教会巡礼ツアーが定着。前年比はほぼ横ばいの状態。



受付期間

3月16日(月)〜21日(土) 10時〜15時30分 申し込み先

長崎市橋口町5-1 カナエビル1F

声の奉仕会・マリア文庫

電話095(847)5134

FAX 095(847)5144でも受付可。

マリア 藤澤ミセ修道女

(お告げのマリア修道会)



永井隆博士と被爆者救護活動をした久松シノノさん

原爆投下後、永井隆博士とともに救護活動にあたった「長崎如己の会」副理事長・久松シノノさんが1月8日、長崎市橋口町の自宅で死去、11日同市茂里町の法倫会館で葬儀が行われた。84歳。2005年看護活動の貢献でフーレンス・ナイチンゲール記章を受章。久松さんは本紙1月号の2面「長崎の鐘」をスイスに――の記事の中で「初音に耳を傾ける久松さん」として写真が掲載された。

ジェームス・ハヤット神父

1月14日肺炎のため東京都内の病院で帰天。86歳。米国アイダホ州出身。葬儀ミサは17日河原町教会で行った。司式、岡田武夫・東京大司教。同師は1949年来日、河原町教会助任司祭、西院教会主任司祭を歴任。「心のともしび運動」を提唱し、57年から京都放送のラジオ宣教番組「心のともしび」を企画・出演。同番組は、民放ラジオの長寿番組として現在も全国各地の放送局で放送されている。

声の奉仕会 マリア文庫

21年度奉仕者募集(館内作業事務、テープ、CDのダビング、貸し出し作業、パソコンその他「音声訳」パソコンを使って音声訳をします。音声訳の方は左記の講習の受講をお願いします。講習期間 4月15日〜10月28日 毎週水曜 ただし、8月は2回のみ。祝祭日は休み。時間は午前10時〜12時。カトリックセンター

お告げのマリア修道会

初誓願式

1月12日、長崎市小江原の本部聖堂において、高見大司教主司式、約50人の司祭団が参列のもと

初誓願式が行われた。〈初誓願宣立者〉マリア・コルベ 岩田真里亜(湯江)

マリア 永田 亜希(紐差) マリア 藤原真都華(上神崎)



一昨年(2007年)のことが、11月の「文化の日」、福江市で課外授業「ようこそ先輩久賀島へ」主催久賀島地区学社融合推進協議会Ⅱに出演し、講演とマンドリン演奏で島の人

現役時代は放射線技師。退職後、保護司を引き受ける。現在マンドリンにひかれ、ギターも500曲を超えますが、

川、宮城、新潟などまで足を延ばし、無報酬。「レパートリーは500曲を超えますが、

は「日本の詩」「クリスマスキャロル」「夏の思い出」「長崎の鐘」「千の風になつて」。季節的に選曲も変わってきます」

活女子大学音楽部の定期演奏会、混成合唱のテナーとして毎年出演している。

「共に歩む旅」入門講座

小共同体推進室が企画する「共に歩む旅」入門講座が開講し、1回目の1月14日、長崎市内外から約60人の受講者がカトリックセンターに集まった。写真Ⅱ。



活されたイエスご自身と理解に基礎をおく。講座ではこの要理の考え方を知り、実習を通して

進行係ができるようになること、また、小教区への紹介の仕方を学んでいく。

同推進室長の中浜敬司師は、「一人ひとりそれぞれの信仰体験をまだ十分に味わえていない。この『共に歩む旅』の中で、私たちのうちにおられるキリストと向き合い、共に分かち合うことで気付かされる信仰の喜びを実感し、それぞれが伝えてほしい」と期待する。講座は2月18日まで全5回開催。



「人」

「人」

「人」

「人」

「人」

「人」

野原 博さん(浦上教会所属)

長崎大学付属病院、シルバースターなど。演奏先は、04年から今日まで137会場を数える。五島、久留米、遠くは神奈

長崎大学付属病院、シルバースターなど。演奏先は、04年から今日まで137会場を数える。五島、久留米、遠くは神奈

長崎大学付属病院、シルバースターなど。演奏先は、04年から今日まで137会場を数える。五島、久留米、遠くは神奈

長崎大学付属病院、シルバースターなど。演奏先は、04年から今日まで137会場を数える。五島、久留米、遠くは神奈

殉教者をテーマ 絵画入賞者決まる

小・中学生を対象
信仰教育委員会

信仰教育委員会は、小中学生を対象に188殉教者をテーマにした絵画を募集していたが、入賞者が次の通り決まった。

【最優秀賞】

「どうかお父さんのように」

▼小4 嘉松 峻矢(御厨)



【優秀賞】

▼小1 糸永こうすけ(平戸)

【地区長賞】

(長崎中地区)

▼小2 14人、共同作品(西町)



- ▼小2 池田 南子(倭町)
- ▼小3 吉岡 真理子(長与)
- ▼小5 畑原 直輝(上神崎)
- ▼小6 村川 玄(平戸)
- ▼中学生 橋口陽平(鮑の浦)
- ▼小3 13人、共同作品(西町)
- ▼小4 7人、共同作品(平戸)

- (長崎北地区) ▼小5・6 12人、共同作品 (長与)
- (長崎南地区) ▼小3 中ノ瀬 嶺(神ノ島)
- (佐世保地区) ▼小6 2人、共同作品(相浦)
- (平戸地区) ▼小5 幸谷 匠 (上神崎)
- (上五島地区) ▼青方・大曾教会、共同作品
- (下五島地区) ▼下五島地区の全教会



イタリアの教会、公立高で 長崎の被爆者が体験談

ピエモンテ州

被爆者の生の声を―とイタリアのピエモンテ州にあるカトリック・ノヴァーラ教区(教区長レナート・コール司教)の招きを受け昨年12月28日長崎を発った長崎教区広報委員 深堀 柱さん(78)が、1月12日帰国した。

現地の受け入れはノヴァーラ教区の正義と平和委員会委員長ドン・マリオ・バンデラ神父。深堀さんがピエモンテ州のノヴァーラ県に入った12月30日、被爆者が初の訪問か記者会見がセツトされ、夜のテレビニュース、翌日の全国紙、地方紙1面に掲載された。大みそかはマッシノ・



「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください」

その後夏休みも終わり、2学期になりましたが、M君の姿が見えないので、こちらから電話をかけた方がいかな、と思つて

だの「と尋ねると「うん」と答えたのです。「そう、あなたが行く方を選んだのね。シスターはうれしいよ、M君、イエスさまが十字架の死を選んだときのことを知っている」「うん

にうれしそうな顔をして、わたしを見ました。M君はこの出来事を通して、1つの大切な選びをしたのです。

今までは、親が言うままに生きていた教会学校かもしれないけれど、これからは自分から選んで神さまの勉強をするために来るのです。

神さまの望みを選ぶときには、何らかの形で苦しみが伴います。しかし、強いられて嫌々ながら行うときより、自分で選ぶとき、進んで行ったときに、喜びがあります。

みことばにふれて50 中町教会学校スタッフ



「初めは、この苦しみを遠ざけてください、と言っただけ、あとで、お父さんの望みだから、と受け入れたんだよね。シスターはその箇所を思い出したのよ」と言うと、M君も急

「初めは、この苦しみを遠ざけてください、と言っただけ、あとで、お父さんの望みだから、と受け入れたんだよね。シスターはその箇所を思い出したのよ」と言うと、M君も急

み上げた。この後、「平和旬間では政治・経済的な話をしますが、今日は被爆者の苦しみが生きて目と目に飛び込み、すべての人の心に届きますように」と訴えた。

元日、ノヴァーラ教区司教座聖堂で被爆証言元日はカトリックの暦では「神の母聖マリア世



「音楽と講演Ⅱ」
▼3月1日(日)14時〜16時 城山教会聖堂。I部「音楽」 II部「講演」ベネディクト16世(世界平和の日メッセージ)
講師 山内清海師(長崎純心大学・大学院教授)入場無料。

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口 美義
〒858-0926 佐世保市大湯町586
TEL(0956)47-4380

主の平安

五島式典社(斎場)五島中央会館
代表取締役 ヨゼフ 浦 昭
五島市上大津町1385番地1 TEL (0959) 74-5551
24時間営業 FAX (0959) 74-5552

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 寛己
本社 〒857-1166 佐世保市本風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

マイホームの美容と健康に!

(有) 山 川 塗 装

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役 ベトロ 山川 進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

車イスでお墓参り 祈りの丘

長崎駅より車15分、小江原車庫前バス停より徒歩3分
夢が丘ニュータウン県道向かい、車50台以上
長崎大理石 (TEL) 095-839-0374
経営管理者 (TEL) 095-839-1008
祭壇前、規格墓碑一切(即納骨可) 210万円

交通誘導警備 常駐警備 イベント警備

(有) 小田 警 備 保 障

警 備 員 募 集 !
電話 095-856-6524 FAX 095-856-6523
長崎市横尾3丁目31-15 代表取締役 テレジア 小田寿美子
専務取締役 パウロ 小田 睦